

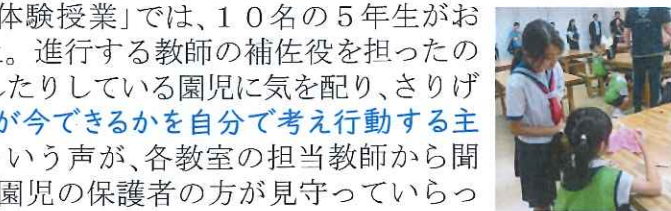
何ができるか自分で考え、 自分なりの答えを持つ



校長 佐藤 智子



8月29日の年長児対象「体験授業」では、10名の5年生がお手伝いとして大活躍をしました。進行する教師の補佐役を担ったのはもちろん、とまどったり緊張したりしている園児に気を配り、さりげなく声をかけるなど、**自分に何が今できるかを自分で考え行動する主体的な動き**がすばらしかったという声が、各教室の担当教師から聞かれました。教室の後ろでは、園児の保護者の方が見守っていらっしやいました。現在、入試の保護者面接が進んでいます。保護者の方からは「在校生の方の声かけやフォローが温かく、とても安心できた。」体験園児からは「こんなお姉さんみたいになりたい。」などの声を多くいただいています。



9月10日、『交流教室 デフリンピアンがやってきた!』(主催: NHK 千葉放送局・NHK 厚生文化事業団・東京都障害者スポーツ協会 **趣旨: 障害者理解、一人一人が等しく大切な人だと考える契機とし、共生社会を目指して自分には何ができるのかを考える**)が4~6年生対象に行われ

ました。デフサッカー(聴覚障害のある方のサッカー)の選手4名【写真左】をお招きし、講演、ゲームや試合交流(6年生は試合交流以外参加)がありました。写真上のような「伝言ゲーム」では声を使わないコミュニケーションが難しく、お題は全くうまく伝わりません。ジェスチャーだけでなく手のひらに文字を書く等、様々な伝え方があることを教わりました。また、コロナ禍での工夫(唇の動きが読めない中での筆談や文字起こしアプリの活用等)やユニバーサルデザインの大切さ(振動する目覚ましや電車での字幕等)を知ることを通して、困難を個人の努力だけで乗り越えるのではなく、周囲の理解や工夫、社会の仕組みや環境を整えることで、誰もがより生活しやすく、社会に参加しやすくなることを学びました。さらに、相手の立場に立って「どのような工夫ができるだろう」「どのような環境ならみんなが過ごしやすいただろう」と考え、行動していくことの大切さに気づく機会となりました。質問コーナーも充実しました。

した。Q「4年 「この社会で変えてほしいことは？」 A「字幕や振動、光の点滅で危険を知らせる仕組みが当たり前になること」 Q「5年 「僕は何をすれば役に立つのか」 A「手話を覚えてくれることも嬉しいが伝えたいという気持ちを示してくれること。また自分自身で何がいいのか考え気づきチャレンジしてほしい。私達も失敗してチャレンジして、を繰り返してきたので、失敗を恐れずチャレンジしてほしい。」最後に、「我々と会った今がスタート。障害者だけでなく色々な人との出会いを大事にし、今日の学びを生かしてほしい。色々な関わり方があるので、相手に寄り添い、気づきを大事にして行動してほしい。」という貴重なメッセージをいただきました。



9月14日、本校卒業生を含む5名(渋谷教育学園渋谷高等学校2年生)による、6年生対象の講演がありました。“Hiroshima Brochure Project”(HBP)-アメリカの高校生に向けて広島についてのパンフレットを作り、アメリカの高校で世界史の授業で教科書として使ってもらい、当該高校ならではの取組。英語・国語で原爆に関する文章を読むなどの授業を受け、広島研修後、パンフレットをチームで作成。校内で選ばれた2チームのみフロリダの高校へ行き、現地校生と交流-「絵本」「アニメや写真」「絵画」「モニュメント」「当時の新聞や手紙」など、5名それぞれのアプローチで“どうしたら自分事として伝えられるか”に腐心しパンフレット作成や発表に臨んだかがよくわかりました。*様々な立場から考え、正しい情報を正しく共有することで平和に向かう *何ができるか自分で考え、自分なりの答えを持つ その大切さをしっかりと受け止めることができました。6年生も「これまで自分達が戦争や平和について調べ考えてきたこと」を発表しました【写真右】。



「感性の教室」(ダイヤモンド社)を出版した末永幸歩さんの言葉を中心に抜粋。末永さんは、AIの時代に「**自分だけの視点で物事を捉える力である感性を鍛えよう**」と提唱している。この考えに至ったのも、自身の活動を続けるなかで「**なぜ勉強をするのか**」という問いにぶつかったことがきっかけの一つだった。

これまで、全国50カ所以上の学校や教育機関で児童や生徒とアート活動を通して、「**自分なりのものの見方」「自分だけの答え**」を探究する授業を開いてきた。ただ、「意義がある授業をしても、結局、子どもたちは受験という数値でジャッジされてしまう」という教育者側の悩みをたびたび聞いたという。

その過程で、「**勉強は花を咲かせる、つまり受験や就職で成功することだけのためにあるのではない。根っこを伸ばすことを楽しむために存在しており、今の社会の評価軸を基準に測らなくていい**」と再認識したという。「**一本道のキャリアを歩むだけが唯一の時代ではなくなっています。まず、『自分自身の人生を生きる』ために学びが必要だということに気づくべきではないでしょうか。**」



9月18日、2年生は「葛西臨海水族園」への校外学習へ行きました。レクチャールームで団体プログラム『さがせ! いろんな魚』に参加した子ども達は意欲満々。魚が形によって泳ぎ方や生活の仕方が違うレクチャーに熱心に聞き入り、クイズへの挙手、マグロ・ウツボ・カレイの泳ぎ方の真似【写真左下】など、とても積極的な姿勢に感心しました。



その後のグループでの見学では『めあて: ①お気に入りの魚を見つけよう ②マナーを守ろう ③教え合おう』を意識しながら、探検ボードに書き留めていました【写真右】。班ごとに食べた、待ちに待ったお弁当タイムは、どの児童も満面の笑顔でした。



はんかつどうしてるときに、かつてにどうしないことを一番がんばりました。レクチャールームで、カレイはおとなになるとき、目がちがうところにいどうすることをしつて、ええ〜そうなんだ……と思いました。
2年

実行いいんで、バスレクとしかいについて、どこをどうするかなどで協力しました。グループかつどうで、「ここは、こんでいるから後で行こう。」「ここはさっきのとにいたから、もうちょっとちがうところに行こう。」など協力しました。
一番おどろき、いんしょうにのこったのは、クラゲのことです。なぜかという、ほとんど水で、プランクトンだったからです。
2年

グループかつどうのとき、時間を見ながらスムーズにたくさんのお気に入りの魚を見つけられた。
すごくカラフルな魚やすごく大きいエビと、ちっちゃい見えないくらいのクラゲやたくさんのお魚がいるんだなと思いました。
2年

グループ活動で「こっちはよ!」「入らないよ!」など、いろいろなことを教え合いました。
一番おどろいたのは、マグロやヒラメなどは、形に理由があったことです。さいしょはただできとうにできたと思っていました。
2年



夏期休業中に、372冊の和書と195冊の洋書を後援会より購入していただきました。9月26日、後援会役員の方々がこれらの洋書に「ブックコートフィルム貼り」をしてくださいました。福田司書の説明を聞き、一冊一冊丁寧に作業してくださり、右写真のようにきれいに仕上がりました。お忙しい中ご協力いただき、ありがとうございました。子ども達の読書がより豊かになることを願っています。

